●JICA国内研修ゲンバ訪問記VOL.28 島嶼における自立を目指した地域資源活用による人づくり、地域づくり@小値賀・前編

OJAMA-SHIMASU

(※) 運動会は島民総出で行い、夜には必ず宴会があるらしい。

EDITOR'S MEMO

今回はJICA九州の「島嶼(とうしょ)における自立を目指した地域資源活用による人づくり・地域づくり」を前後編で2号にわたり紹介。これは長崎県小値賀町の提案による草の根技術協力事業で、実施団体は長崎ウエスレヤン大学だが、福岡市のNGO「エデュケーショナル・サポート・センター(Edu)」や名古屋大学も協力し、官・学・民の連携で行われている。

世界的に地方分権が推進される中、日本・開発途上国を問わず、地域資源を生かした住民主体の自立的な発展を目指す地域づくりが重視され、特に小規模離島にとって重要な課題となっている。小値賀町は地域の特性を生かした地域振興を推進できる人材を育成し、住民主体のまちづくりに取り組んでいる。この研修は、同様の問題を抱える大洋州などの島嶼国の行政官が、小値賀町の経験から、住民の地域資源の認識・活用能力向上における行政の役割を理解し、その人材育成事業の企画・運営手法を習得することが目的だ。同時に、小値賀町は研修を職員の能力向上や地域づくりに活用し、住民も町の魅力を再発見する効果が期待されている。

今年度は2007年10～11月に行われ、サモア、フィジー、トンガ※が参加した。私たちが取材した研修現場は、小値賀島の属島、大島を事例に、住民参加型の農村調査手法(PRA)を使って島の活性化のためのアクションプランを作るもの。果たしてその結果は? (2月号に続く)

※事情により早期帰国。

たけだみりこ　漫画家。4コマ、ショート、料理漫画を中心に活動中。著書に『セイシュンの食卓』『異国のメシーる』『クッキング カンタンタン』『キッチンの穴』など。http://majop.com/Neji/